

評価対象年度	平成21年度	施策評価シート		政策	13	施策	30																																																																																						
施策名		30	住民参画型の社会資本整備や良好な景観の形成		施策担当部局			土木部、農林水産部																																																																																					
「宮城の将来ビジョン」における体系		政策名	13	住民参画型の社会資本整備や良好な景観の形成		評価担当部局 (作成担当課室)		土木部 (土木総務課)																																																																																					
施策の目的 (目標とする宮城の姿)		<p>既存施設の保全・有効活用、新設施設の長寿命化等の長期的な視点に立った社会資本整備が展開され、世代を超えて良質な社会資本が蓄積・共有されている。</p> <p>身近な社会資本の整備や維持管理について、行政、住民、企業の連携・協働が推進され、地域のニーズに沿った住民参画型の社会資本が整備されている。</p> <p>農地や森林が適切に保全されているとともに、農山漁村の自然環境等の価値が認識され、都市住民等との交流が活発になり、定住する人が増加している。</p> <p>農山漁村や都市において、自然、歴史、文化等の地域資源を生かし、人々の生活、経済活動と調和した個性ある良好な景観が形成されている。</p>																																																																																											
その実現のために 行う施策の方向		<p>みやぎ型ストックマネジメントなど長期的な視点に立った社会資本の新設・保全・更新システムの整備</p> <p>社会資本の計画段階や管理に関して住民意見を取り入れていく体制の整備</p> <p>みやぎスマイルロードプログラムなど道路や河川清掃などへの住民や企業参画の促進</p> <p>地域協働による農業水利施設などの地域資源の保全活動や、農山漁村のもつ魅力を生かした都市住民との交流や定住の促進</p> <p>全県的な景観形成の方向性提示と市町村の景観形成への支援</p> <p>景観に配慮した公共施設整備の促進と規制等による良好な景観形成への誘導</p> <p>宮城の良好な景観の選定など景観づくりへの普及啓発</p>																																																																																											
事業費 (単位:千円)		年度	平成19年度 (決算額)	平成20年度 (決算額)	平成21年度 (決算(見込)額)																																																																																								
		県事業費	550,572	551,523	544,314																																																																																								
<p>施策に関する社会経済情勢等の状況(全国・本県の状況、法令・条例・計画等策定の状況等について)</p> <p>・戦後、集中的に整備してきた大量の社会資本は、老朽化が進んでおり、長期的な視点に立った社会資本の整備や維持管理が求められている。</p> <p>・県が管理する道路、河川、海岸、港湾及び公園に関して、清掃や緑化などのボランティア活動や市民活動(NPO等)への参加が拡大している。</p> <p>・中山間地域を中心に、農村では高齢化や耕作放棄が深刻化している中、国が策定した「食料・農業・農村基本計画」では、農地・農業用水等の資源について、保全のための施策の構築が位置付けられた。</p> <p>・「景観緑三法」が平成17年度に施行され、市町村による積極的な景観づくりの取組を支援する体制が整いつつある状況を踏まえ、平成19年度に「新・宮城景観形成指針」を定め、指針に基づき各種施策・事業を実施している。</p> <p>・県の景観形成に関する基本理念等を定めた「宮城県美しい景観の形成の推進に関する条例」が、議員発議により制定され、平成22年1月から施行となった。</p>																																																																																													
<p>県民意識調査結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">調査実施年度 (調査名称)</th> <th colspan="2">平成19年度 (平成20年県民意識調査)</th> <th colspan="2">平成20年度 (平成21年県民意識調査)</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">この施策 に対する 重視度</td> <td>重 要</td> <td>19.5%</td> <td rowspan="2">60.0%</td> <td>19.4%</td> <td rowspan="2">60.4%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>やや重要</td> <td>40.5%</td> <td>41.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">あまり重要ではない</td> <td>14.3%</td> <td>13.8%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">重要ではない</td> <td>3.7%</td> <td>3.3%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">わからない</td> <td>22.1%</td> <td>22.4%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">調査回答者数</td> <td colspan="2">1,726</td> <td colspan="2">1,785</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">この施策 に対する 満足度</td> <td>満 足</td> <td>5.5%</td> <td rowspan="2">31.7%</td> <td>3.8%</td> <td rowspan="2">31.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>26.2%</td> <td>27.9%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">やや不満</td> <td>19.9%</td> <td>19.5%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">不満</td> <td>5.3%</td> <td>5.1%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">わからない</td> <td>43.1%</td> <td>43.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">調査回答者数</td> <td colspan="2">1,693</td> <td colspan="2">1,750</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								調査実施年度 (調査名称)		平成19年度 (平成20年県民意識調査)		平成20年度 (平成21年県民意識調査)				この施策 に対する 重視度	重 要	19.5%	60.0%	19.4%	60.4%			やや重要	40.5%	41.0%			あまり重要ではない		14.3%	13.8%			重要ではない		3.7%	3.3%			わからない		22.1%	22.4%			調査回答者数		1,726		1,785				この施策 に対する 満足度	満 足	5.5%	31.7%	3.8%	31.7%			やや満足	26.2%	27.9%			やや不満		19.9%	19.5%			不満		5.3%	5.1%			わからない		43.1%	43.7%			調査回答者数		1,693		1,750			
調査実施年度 (調査名称)		平成19年度 (平成20年県民意識調査)		平成20年度 (平成21年県民意識調査)																																																																																									
この施策 に対する 重視度	重 要	19.5%	60.0%	19.4%	60.4%																																																																																								
	やや重要	40.5%		41.0%																																																																																									
	あまり重要ではない		14.3%	13.8%																																																																																									
	重要ではない		3.7%	3.3%																																																																																									
	わからない		22.1%	22.4%																																																																																									
調査回答者数		1,726		1,785																																																																																									
この施策 に対する 満足度	満 足	5.5%	31.7%	3.8%	31.7%																																																																																								
	やや満足	26.2%		27.9%																																																																																									
	やや不満		19.9%	19.5%																																																																																									
	不満		5.3%	5.1%																																																																																									
	わからない		43.1%	43.7%																																																																																									
調査回答者数		1,693		1,750																																																																																									
調査結果について		<p>・重視度について、「重視」の割合が概ね6割で推移していることから、この施策に対する県民の関心が高いことがうかがえる。</p> <p>・満足度については、「満足」の割合が概ね3割で推移していることから、引き続き満足度の向上を図る必要がある。また、「わからない」と回答した割合が、4割を超えていることから、施策の成果の周知に一層努める必要がある。</p> <p>・優先すべき項目として、「地域が協働して行う農地や農業用水など地域資源の保全活動や、農山漁村のもつ魅力を生かした都市住民との交流や定住の促進」が高い割合を示していることから、今後は農村部と都市部との交流を図る事業等に取り組む必要がある。</p>																																																																																											

目標指標等の状況						
目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」 N:「現状値が把握できず、判定できない」						
1	目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
	アドプトプログラム認定団体数(単位:団体)	指標測定年度	H17	H19	H20	H21
		目標値(a)	-	208	239	272
	県管理の道路や河川等において、清掃や緑化活動に取り組むボランティア団体の認定数	実績値(b)	161	217	255	309
	アドプトプログラム:アドプトとは「養子縁組」をするという意味で、地域の人々が道路や河川などの公共スペースを我が子のように面倒を見ることから命名、住民と行政とが役割分担の下で、継続的に清掃・美化活動を進めるもの。	達成(進捗)率(b)/(a)	-	104%	107%	114%
	達成度	-	A	A	A	
目標値の設定根拠	・道路、河川、海岸、港湾及び公園それぞれの平成17年度の認定団体数と過去の認定状況から目標値を設定した。 ・道路 平成17年度110団体 平成21年度160団体 ・河川 平成17年度34団体 平成21年度70団体 ・海岸 平成19年度0団体 平成21年度4団体(平成20年度追加) ・港湾 平成19年度4団体 平成21年度9団体 ・公園 平成17年度13団体 平成21年度30団体					
実績値の分析	・平成19年度に35団体、平成20年度に38団体、平成21年度に54団体が新たに認定され、認定団体数は309団体となり、目標値を達成できた。					
全国平均値や近隣他県等との比較	-					
2	目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
	中山間地や農地の保全活動に参加する団体数(単位:団体)	指標測定年度	H18	H19	H20	H21
		目標値(a)	-	703	703	703
	中山間地域等直接支払交付金事業及び農地・水・環境保全向上対策事業による協定締結団体数	実績値(b)	253	770	770	770
		達成(進捗)率(b)/(a)	-	110%	110%	110%
	達成度	-	A	A	A	
目標値の設定根拠	・中山間地域等直接支払交付金事業では平成17年度に、農地・水・農村環境保全向上対策事業では平成19年度に締結した、集落ぐるみの資源保全活動等に関する協定が5年間継続することから、継続期間中は数値が変化しない。					
実績値の分析	・県独自の要件緩和(補助対象農地の面積設定を柔軟に行える)を行ったことで、目標を上回る協定締結団体が設立された。					
全国平均値や近隣他県等との比較	・東北地方では、中間程度に位置するが、全国的には上位となっている。					
3	目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
	景観行政団体数(市町村)(単位:団体)	指標測定年度	H18	H19	H20	H21
		目標値(a)	-	1	3	5
	県内の景観行政団体数(県、仙台市を除く)	実績値(b)	0	0	1	2
	景観行政団体(景観法に定められた景観行政(景観計画の策定等)の主体となる団体)	達成(進捗)率(b)/(a)	-	0%	33%	40%
	達成度	-	B	B	B	
目標値の設定根拠	・平成19年1月1日時点での県内における景観行政団体数(県、仙台市を除く)は0であり、市町村に対する景観行政団体への移行に向けた支援を通して景観行政を進め、良好な景観形成を図っていくことから、景観行政団体数を目標数値とし、景観行政に関心のあると思われる市町村数を踏まえて目標を設定した。					
実績値の分析	・平成21年4月に松島町が景観行政団体となったことから、平成21年度の実績値は2である。今後、新たに景観行政団体となり、独自の景観形成施策を推進していく意向を持った市町村が存在することから、今後の継続的な事業実施及び市町村への働き掛けを行うことにより、目標値の達成を目指す。					
全国平均値や近隣他県等との比較	・平成22年3月1日時点での全国の景観行政団体数(都道府県、政令市、中核市を除く。予定を含む。)は、337団体であり、1都道府県当たり平均7団体となるが、19団体(神奈川県)から、1団体(富山県、和歌山県)まで、都道府県によって差がある。					

施策評価(総括)		
施策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由
<p>・目標指標等、県民意識調査結果、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を顕現させることができたか(「目標とする宮城の姿」に近づいているか)。</p>	概ね順調	<p>・目標指標等について、アドプトプログラム認定団体数は、市民活動の広がりや企業の地元への貢献などの意識の高まりにより、認定を受ける団体等が増えたため目標値を上回った。中山間地や農地の保全活動に参加する団体数も、目標値を上回っている。景観行政団体数は、県内各市町村に働きかけを行い、1団体(松島町)が移行したが、目標値を下回った。</p> <p>・県民意識調査結果からは、「重視」の割合が概ね6割で推移しており、県民の関心が高いことがうかがえる。また、「満足」の割合は概ね3割で推移していることから、引き続き満足度の向上を図る必要がある。</p> <p>・社会経済情勢等からは、道路、河川等の社会資本への清掃や緑化などのボランティア活動や市民活動への参加が拡大している。また、国が策定した「食料・農業・農村基本計画」では、農地・農業用水等の資源について、保全のための施策の構築が位置付けられた。さらに、「宮城県美しい景観の形成の推進に関する条例」が、議員発議により制定され、平成22年1月から施行となった。</p> <p>・事業の実績及び成果等からは、アドプトプログラム認定団体数が増え、参加するボランティアの数も増えたことにより、道路等の良好な維持管理を保つことができたこと、農作物の生産資源等の保全活動に地域ぐるみで取り組んだこと、景観シンポジウムの開催(約250人参加)や「景観百選」の紹介等により、景観に関する意識醸成や普及啓発を図ったことなどから、一定の成果があったものと判断できる。</p> <p>・以上のことから、施策の目的である住民参画型の社会資本整備と良好な景観の形成に向けて進んでいるものと考えられるので、本施策の進捗状況は概ね順調であると判断する。</p>

施策を推進する上での課題等と対応方針

事業構成について	事業構成の方向性	方向性の理由
<p>・施策評価の結果、県民意識調査結果、社会経済情勢及び事業の分析結果(必要性・有効性・効率性)から見て、施策の目的を達成するために必要な事業が設定されているか。事業構成を見直す必要はないか。</p>	現在のまま継続	<p>・施策の進捗状況は概ね順調であり、各事業の分析結果からも一定の成果が上がっていることから、今後も継続して推進していく必要がある。</p> <p>・一部の事業では、他の事業との統合や廃止との分析が行われているが、現在の事業構成を継続し、事業効果を顕現させるよう努める。</p>

施策を推進する上での課題等 施策が直面する課題や改善が必要な事項等(〃の事業構成に関する事項を除く。)

・効果的なストックマネジメント構築に向けての点検体制及び様々な対応方法等、調整を進めていく必要がある。また、県民の理解向上のため、より一層の情報発信や住民対話を行っていく必要がある。

・アドプトプログラムによる認定団体の拡大に向けて、活動のPRや啓発への取組が必要である。また、活動時における安全確保と関係市町村との連携も不可欠となっている。

・農村では、高齢化の進展や後継者不足等により、集落活動の減退が懸念されるとともに、農業者のみによる生産資源や環境資源の維持、保全が困難になってきているため、これらの活動への非農家の参画促進が課題である。

・景観に係る問題の顕在化が認められないこともあり、全体として、市町村、県民ともまだ意識醸成は十分とは言えない。

次年度の対応方針 次年度(平成23年度)における 及び への対応方針

・ストックマネジメント行動方針に基づき、各分野の点検や計画策定を行い、効果的なシステムを構築して実践に努める。また、広く県民への周知を図り、住民協働(コラボ)事業の促進やアドプトプログラムによる施設管理の参加拡大を促していく。

・県のホームページ等を活用して事業の普及啓発を図り、アドプトプログラム認定団体の拡大に努める。また、活動時の安全確保のため、安全作業講習会の開催や傷害保険加入に加入し方が一の事故に備える。

・他の農村振興施策との連携、非農家の参画による地域活性化も想定しながら、農村振興を検討する第三者委員会に諮問するとともに、一般県民への事業PRに努める。

・指針及び条例に基づき、県の景観行政に係る各種施策・事業を平成21年度及び平成22年度の事業内容、成果の検証と併せて、継続的、効率的に実施していく。

施策を構成する事業の状況 (事業分析シートより)

事業の状況					事業の分析結果			次年度の方向性		
番号	名称 (担当部局・課室名)	県事業費 (決算見込、 単位:千円)	活動の状況 (活動指標)	成果の状況 (成果指標)	必要性	有効性	効率性			
1	みやぎ農業水利ストック マネジメント推進事業 農林水産部・農村整備課	7,080	農業水利施設診断数	4箇所	受益面積 100ha以上の 用排水機 場で、耐用 の年数の 1.5倍程度 長寿命化し た施設割合	42%	妥当	成果があった	効率的	維持
2	みやぎ型ストックマネジ メント推進事業 土木部・土木総務課	非予算的手法	-	-	-	-	妥当	ある程度 成果があった	-	維持

施策を構成する事業の状況 (事業分析シートより)										
事業の状況						事業の分析結果			次年度の 方向性	
番号	名称 (担当部局・課室名)	県事業費 (決算見込、 単位:千円)	活動の状況 (活動指標)		成果の状況 (成果指標)		必要性	有効性		効率性
3-1	アドプトプログラム推進 事業(みやぎスマイル ロード・プログラム(道 路)) 土木部・道路課	非予算的手法	スマイルサ ポーター認 定団体数	32団体	ボランティア 参加者数	9,178人	妥当	成果があった	-	拡充
3-2	アドプトプログラム推進 事業(みやぎスマイル ビーチ・プログラム(海 岸)) 土木部・河川課	非予算的手法	スマイルサ ポーター認 定団体数	3団体	ボランティア 参加者数	-	妥当	成果があった	-	維持
3-3	アドプトプログラム推進 事業(みやぎスマイルリ バー・プログラム(河 川)) 土木部・河川課	非予算的手法	スマイルサ ポーター認 定団体数	6団体	ボランティア 参加者数	-	妥当	成果があった	-	維持
3-4	アドプトプログラム推進 事業(みやぎスマイル ポート・プログラム(港 湾)) 土木部・港湾課	非予算的手法	スマイルサ ポーター認 定団体数	19団体	ボランティア 参加者数	2,000人	妥当	成果があった	-	拡充
3-5	アドプトプログラム推進 事業(みやぎふれあい パーク・プログラム(公 園)) 土木部・都市計画課	非予算的手法	ふれあいサ ポーター認 定団体数	3団体	ボランティア 参加者数	971人	妥当	成果があった	-	維持
4	宮城スマイルロードレ ポーター制度 土木部・道路課	非予算的手法	スマイル ロードレ ポーター認 定団体数	0団体	情報提供件 数	-	妥当	ある程度 成果があった	-	統合
5	中山間地域等直接支 払交付金事業 農林水産部・農村振興課	215,520	集落協定対 象面積(累 計)	2,182ha	中山間地域 等直接支払 交付金を受 けている協 定(累計)	253協定	妥当	成果があった	効率的	維持
6	農地・水・農村環境保 全向上活動支援事業 農林水産部・農村振興課	320,964	保全向上活 動実施面積 (累計)	43,949ha	保全活動に 係る協定締 結団体数 (累計)	517団体	妥当	成果があった	効率的	維持
7	農村地域福祉連携型 協働活動支援事業(再 掲) 農林水産部・農村振興課	非予算的手法	モデル支援 を行う地域 数(累計)	0団体	協働による 営農・援農 活動を実施 する地域数 (累計)	0地域	概ね妥当	成果が なかった	-	廃止
8	みやぎの景観形成事業 土木部・都市計画課	750	景観行政団 体への移行 について、 県が働き掛 けを実施し た市町村数	10団体	景観行政団 体数(県、 仙台市を除 く)(累計)	2団体	妥当	ある程度 成果があった	概ね効率的	維持
事業費合計		544,314								